

初めてのコーラー研修会の参加を終えて

スウィングーズH 藪内 美智子

スクエアダンスを始めて6年がすぎました。常に学んでいく事の楽しさ、踊れるようになる嬉しさを感じて、とても充実感があります。

2年ほど前から、コーラー研修を勧められていましたが、踊る事に夢中で、とても考えられませんでした。また今回声をかけていただき、ちょっとのぞいてみようかな、という気持ちで参加させていただきました。日頃からコーラーがいてダンスをする事が当然と、何も深く考えず楽しんでいましたが、研修に参加して考えは一変しました。いつも耳で聞いていたコールが文字になると言葉につまることにびっくり。カラオケとは違うぞ、そしてコーラーさんは大変だと痛切に感じました。

研修の中でダンスの歴史の長さも含め、多くの人達の広いつながりがあり、成り立っていることも感じる事ができました。

またクラブコーラーの後継者不足を耳にする中、遠方から研修に参加されている方もおり、日々努力している事もわかりました。まだまだ、コーラーさん、キュウアさん少ない、そして若い人が沢山きてくれると活気が出ると感じました。そしてコーラー、ダンサーはお互い感謝の気持ちを持ちダンス楽しみたいですね。どちらがいなくても成り立たないのですから。

私自身、研修は終えたものの自信もなくとても不安なのですが、折角勉強する機会をいただいたので気持ちを長くもち、あせる事なく一歩踏み出してみようと思います。



SD-2 コース研修報告

講師 スウィンガーズH 栗村 仁史

今年のSD-2コースは初めて受講する人1名、SD-1コース受講済3名、SD-2コース複数回受講済4名、計8名の参加者が集まりました。今回は受講経歴を参考に1グループ4名に分け、Aグループを栗村、Bグループを澤田俊一さんが担当し、2日間研修を行いました。全員がすでに例会の中でコールをかけており、さらに9月の全日本コンベンションでは全国デビューした人もおり、参加者の持っている技能に差は有るものの、さらに上を目指すためには“なにが必要”で“どうすべきか”を理論と実践の講習で学んでもらいました。主な内容として、

1. コレオグラフィー(ダンスの組立て)

体形の種類 配列の種類 配列の順序パートナーとの関係の4つについて(通称 英語の頭文字で“FASR フェザー”と呼ばれる)理論説明。

2. コールの組立て イクイバレント(1つの動作結果と、他のいくつかの動作を組み合わせた結果が同じ)ゼロムーブメント(通称ゼロと呼ばれ、いくつかの動作を使って開始前の体形に戻す)コンバート(LINEからBOXへBOXからLINEへと体形を変える)

これらの手法を理解し又、自分なりに考えコールの幅を広げる工夫をする。

3. ボディーフロー コールをする上でタイミングとあわせ大事なことからコーラーの評価にも係ってくる。コールの事例を4例紹介し、ボディーフローとして好ましくない箇所にマークしてもらい、次に実際に踊りの中でチェックし理解を深めてもらう。

4. コールの訓練 2カップルで一定時間コールしてもらい、いくつベーシックを出せる事が出来るか。指定した体形から動作を3つ続ける。指定した体形からパートナーに戻す。

この2つは机上での訓練なので、じっくり考える時間もあり少ない動作で済んだが実際にダンサーに動いてもらいながらのコールは簡単ではないので、例会で勉強させてもらう。

5. シンギング 当然歌詞は英語なので、英語独特の発音の変化を理解しないとWith Callを聞き取れなかったり、歌っても字余りになったりする。基本的に英語は日本語と違い単語を区切って読まず続けて読む。単語の組み合わせによっては違う発音になってしまうなどを理解する。



SD-2Aコース

最近では2人でやる機会も多いので自分流の歌い方では相手のコーラーはハーモニーをつけられないのでWith Call通りに練習をする。

最後にAグループはハッシュコールとシンギング“いまさらジロー”を発表し研修を終えました。ダンサーに勉強を求めるコーラーは多いがコーラーに勉強を求めるコーラーはおりません。逆に言うと、ダンサーには定型化したプログラムがあり安易に上のレベルを目指す傾向が強いからです。一方、コーラーには上のレベルと言う定型化したものはないので現状で満足してしまいます。でも、学ぶ事はたくさんあります。音楽の使い方、シンギングの取り組み、モジュール等々。コールの技術も進化してきています。いつまでも同じだとダンサーに飽きられますよ。